

6 文や文章の中で使うようにさせる指導について (2年)

<p>【板書事項】</p> <p>一 きょう室で 大きな 音が きこえました。</p> <p>二 おとうとが 日きを書きました。</p> <p>三 ひがしから かげが 歩いてきました。</p> <p>四 はるやすみに ほんをよみました。</p>		
	<p>【指導の流れ】</p> <p>1 一の文を板書し、音読させる。 「この文には、漢字で書くことができる言葉が二つあります。漢字を使って文を書きましよう。」 C「教室で大きな音が聞こえました。」</p> <p>2 二の文を板書し、音読させる。同じように漢字を使わせてノートに書かせる。 C「弟が日記を書きました。」 「習った漢字を見つけて書くことができましたね。」</p> <p>3 三と四の文を板書し、音読させる。 「平仮名の文です。漢字に直せるところを直して、ノートに書きましよう。」 C「東から風がふいてきました。」 C「春休みに本を読みました。」</p> <p>3 児童の日記等からとった例題を練習問題として行う。 「みなさんの日記の文から問題を考えました。同じように、ノートに漢字を使って書きましよう。」</p>	
		<p>【留意点】</p> <p>1 始めは、「二つ」と直す漢字の数を限定して問題を解かせる。既習の漢字が使えることを児童に伝える。</p> <p>2 次はすべて平仮名とし、漢字の数を限定しないで問題を解かせる。一つでも直せた児童を認め、漢字を使う意欲を高めるようにする。</p> <p>3 児童の作文やノートから出題することで、日常化につなげる。この際、児童の氏名は伝えないようにする。児童の作文を基にして、教師が作成してもよい。</p> <p>また、児童それぞれが書いた日記等の文章を自分で直させてもよい。</p>